

第278回くらしの植物苑観察会 令和4年5月28日(土)

## 「日本の森林の多様性」

辻 誠一郎 (東京大学名誉教授)

日本の森林植生は大きく二つに分けられます。東・北日本には落葉広葉樹林、南・西日本には常緑広葉樹林が分布しています。これらはいずれも気候的極相林と呼ばれるもので、気候という自然の力が働いて創り出されたものです。関東平野はその境目に位置していて、平野部には常緑広葉樹林、山地部には落葉広葉樹林が分布しています。もちろん、この二つは人間の働きかけが無かったときの自然の生態系で、縄文時代以来、さまざまな人間の働きかけによって変貌を遂げてきました。働きかけの一つに、近現代における拡大造林があります。スギやカラマツのような有用な針葉樹が広大な面積にわたって植えられていったのです。

拡大造林という人間の働きかけによって造り替えられた森林や、継続的な伐採・利用によって創り出された二次林は日本列島全域に分布していますが、それでもなお気候的極相林や降水の季節配分の違いによってすみわけをしている温帯系針葉樹林を各地で観ることができます。このような森林は相観としては似ていても、植物種が異なるため多様な森林が成立してきました。それらは人間の生活様式の形成にも深くかかわって、多様な文化を育んできました。

ことに重要なのは、古代以降の温帯系針葉樹林は鉄器の普及とともに日本文化の代表といってもよい針葉樹建築文化・木工文化の形成にかかわってきました。温帯系針葉樹林には、スギ、ヒノキ、サワラ、モミ、ヒバ、コウヤマキ、トガサワラ、カラマツなどが含まれます。あまりにも激しい伐採・利用によって、コウヤマキやトガサワラのように絶滅が危惧されている種も含まれます。

日本の森林の多様性とそれらがもたらした多様な日本文化を、くらしの植物苑で育まれている針葉樹を中心にして観察を進めることにしましょう。

.....

**次回予告** 第279回くらしの植物苑観察会 令和4年6月25日(土)

「デジタルアーカイブで見る草木の世界」 後藤 真 (当館研究部 准教授)

13:30~15:30 (予定) 苑内休憩所集合 申込不要 定員20名